

事業研究委員会

一 研究テーマ

新しい時代にふさわしい、多くの教職員や地域の方に参加・研修してもらえる、魅力ある小県上田教育会はどうあるべきか研究し、答申する

二 テーマ設定の理由

近年、校務の多忙化により、教育会への参加については躊躇する先生が少なくない。また、生徒数の減少に伴う教職員の減少に伴い、教育会への入会者が増えにくい状況もある。

昨年度これからの教育会のあり方を検討していくなかで、既存の調査研究委員会の中には、もはやその機能や役目を終えた委員会もあると思われた。そこで本年度は、昨年度の答申に対する各委員会のお考えや今後の展望などを把握し、答申したいと考えた。

また教職員の働き方改革を踏まえて、教育会館の有効利用と教職員間のコミュニケーション作りを図るため、新たな企画を創造したり、教員サポート事業の運用を目指したりし、より魅力的かつ時代のニーズに則した教育会にするにはどうしたらよいか、を研究する必要があると考え、本テーマを設定した。

三 研究の経過

回・日時	活動内容
第1回 2019(令和元1年) 5月5日(火)	・総委員会1 委員の組織決め、研究テーマ・研究内容の確認。 <係分担> ・推進係 片桐 芳之先生(浦里小学校) ・委員長 田中 昭彦先生(柵津小学校) ・副委員長 服部 直幸先生(北小学校) ・会計 山野井 宏彰先生(東部中) ・記録 所 雅文先生(川西小)
第2回 6月18日(火)	・上小教育会館の施設見学 ・池内先生のお話 ・アンケートの内容 コワーキングスペース 教員サポート事業 など ・今後の委員会の活動計画 コワーキングスペース(アンケートの結果の検討) 運用方法 事例研究 教員サポート事業について アンケートの結果の検討 賛助会員との懇談資料検討
第3回 7月12日(金)	・アンケート結果の検討 ①コワーキングスペースについて サテライト職員室設置の件(服部先生より) ②教員サポート事業について ・エアコン、ネット環境、椅子テーブル、PC,DVD、コピー機などがあるとよい。 ③教員サポート事業について ④各種研究委員会へのアンケートについて

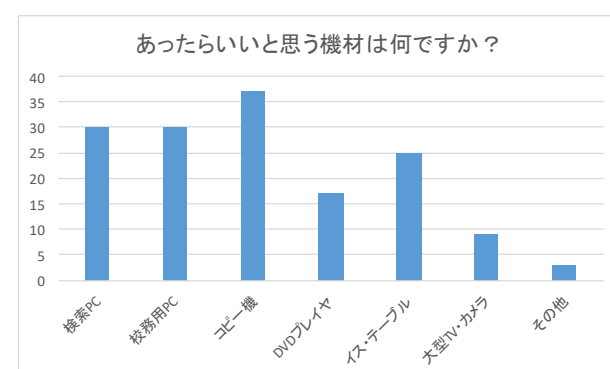
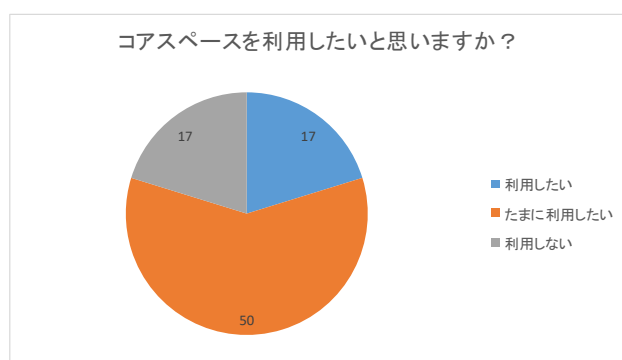
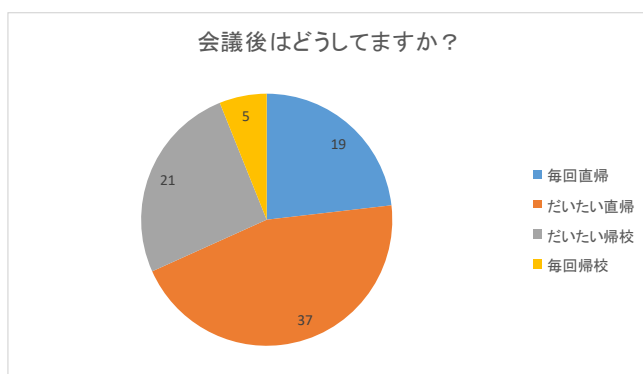
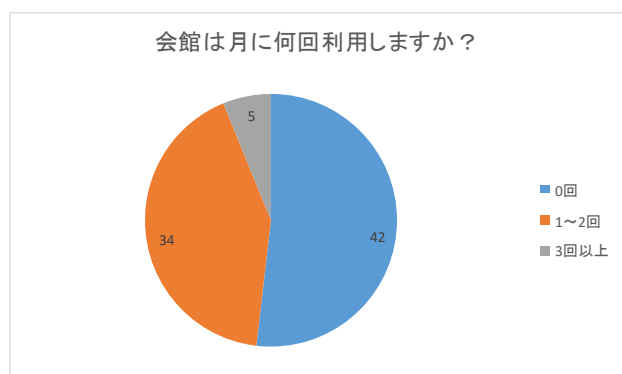
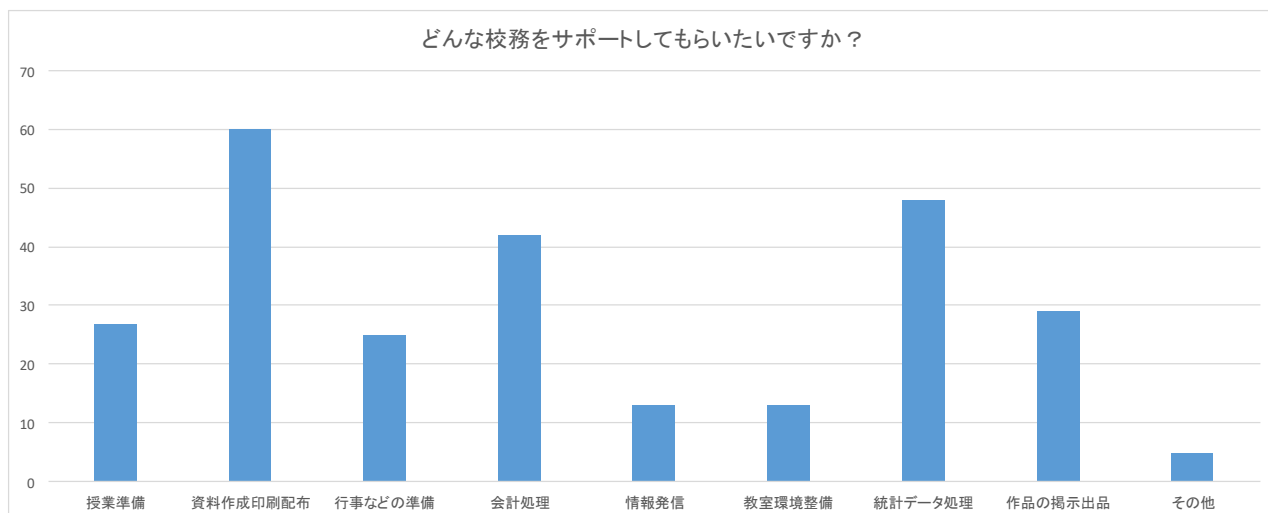
	<ul style="list-style-type: none"> ・7月中にお願いの文書を配布。全委員会が対象。(各委員長へ) ・信濃教育会賛助会員会、支部代表の小林幸雄先生との懇談会について
<p>第4回</p> <p>8月28日(水)</p>	<p>①教育会長先生、賛助会代表の小林幸雄先生との懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛助会の先生方とのすり合わせをしていく。窓口は関谷圭史先生 ・賛助会は193人ほど。授業に関してサポートする気持ち強い。 <p>②教員サポート事業について</p> <p>③コワーキングスペースについて</p>
<p>第5回</p> <p>10月1日(火)</p>	<p>①教員サポート事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通のデータベースはないか。教育会のHP(情報)がある。情報教育の係に相談していく。 ・ボランティア事業はボランティア保険に加入しているがその保証はどうするか。 ・学校によってはSSS的ボランティアの取り組みもみられる。教育会から校長会へ働きかけたほうが動きやすいのではないか。 ・データベースがあればありがたい。教育課程の指導案など。 ・コミュニテースクールのコーディネーターはだれか。 ・信州型コミュニテースクールの委員会各校で推進していくべき。(窓口として公民館) <p>②コワーキングスペースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算については池内先生と相談していく。 ・常任委員会へかけていく。 <p>③調査研究委員会のアンケートについて</p>
<p>第6回</p> <p>11月28日(木)</p>	<p>① 研究のまとめ</p> <p>②コワーキングスペースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリンターよりもコピー機の方が安くあげることができる。 ・ケーブルを購入する。 ・教育会館2階、資料室を使用する予定。エアコン整備。 <p>③答申案協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年教師、生徒指導、発達障がい、環境調査は来年度廃止。 <p>④リーフレット案協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月中にそれぞれがまとめ、服部先生(北小)へメールで送信。 <p>⑤本年度の反省と来年度への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業がとても具体化し、前進することができて良かった。 <p>⑥本年度の継続委員の推薦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服部直幸先生(北小学校)・堀内富美先生(第五中学校)・田中昭彦先生(柵津小)

四 研究内容

- 1 公益財団法人小県上田教育会館専任幹事、池内典和先生より、小県・上田教育会の本来の目的や役割〔学習指導研究を通して、子どもの健やかな成長を願い、様々な事業を運営していること〕、当委員会のこれまでの事業の歩み(歴史)・様子等についてお話を頂いた。又、石井鶴三先生の美術資料の現状についてお話をお聞きした。

2 教員の働き方改革を踏まえ、現場の先生方がどんなサポートを必要と感じているのか、また教育会館の有効利用の一つとして、コワーキングスペースを設けた場合、利用したいと考えているかなど、アンケート調査した。

教育会館利用と教員サポートに関するアンケート結果集計



3 今後の会員数と時代のニーズを鑑み、委員会の統廃合を考え、本年度各調査研究委員会へアンケート調査をした。その結果をふまえ、次の委員会について活動の見直しや統廃合を図る。

「青年教師」「環境調査」「発達障がい」「生徒指導」…廃止

「会誌会報」「教育資料」「石井鶴三」…活動内の見直し

(詳細は答申を参照)

五 研究のまとめと課題

1 成果

- (1) 各調査研究委員会に昨年度の答申に対してや今後の展望についてアンケートを寄せていただき、来年度に向けた事業改善の方向性が明確になってきた。
- (2) コワーキングスペース設置に向けて、場所、機器などの準備が進められた。
 - ①会議棟2階「資料室」を活用する。エアコンは整備済み。ラン配線とコンセントの設置を行う。
 - ②利用できる機器は、ノート PC、TV モニター、大型テーブル、椅子、なおコピー機プリンターは事務局のネットワーク内の物を利用)
- (3) 教員サポート事業については、賛助会員会の小林先生と懇談でき、意見交換ができた。
- (4) 昨年度から引き続き、会員募集用カラー版パンフレットを、会員の声を入れて作成した。

2 今後の課題

- (1) 会員数の減少を防ぐために、さらなる業務改善、魅力ある研修やコミュニケーションの場作りを目指していく。
- (2) 教員サポート事業については、懸案事項について更に検討を進める。
 - ①コーディネートを誰がするか。
 - ② SSS との兼ね合いや棲み分けをどうするか。
 - ③サポーターへの報酬やその予算立て、ボランティア保険をどうするか。
 - ④サポーターを募る範囲をどこまで広げていくか。
- (3) コワーキングスペースにつての広報活動をどのように行っていくか。また新 PC の購入のための予算立て。
- (4) 教育会 HP 内に、各学習指導研究委員会が研究した指導案をデータベース化して、利用しやすくする方法の検討。

六 令和元年度 事業研究委員会 答申

「公益財団法人小県上田教育会」の会員で構成されている「小県上田教育会」をさらに新しい時代にあった魅力あるものにし、会員数を増やしたり、我々の教育活動をより効率的にしたりするために、以下のように答申する。

(1) 教育会の意義や活動を理解してもらえらる広報活動の充実と会員を増やす取り組みを。

- ・令和2年度「小県上田教育会」のリーフレット作成・配布により、教育会の事業内容の理解を図り、代議員の先生方を通し、多くの会員の入会をお願いする。
- ・リーフレットは、教職員の姿や子どもの声を入れ、作年度刷新したものを踏襲しながら、活動内容を記載するなど、さらにわかりやすく見やすいものにしていく。

教育会は我々教師の学び合いの場であり、教師自らが求めて自分を高めていく職能向上の場である。また人と人とのつながりができる場にもなっている。そこで実際にどのような研究や研修が行われているのか、これらの活動がどのように児童生徒のために生かされているのかを、すべての教職員に理解していただいたり、入会を勧めるよい資料にさせていただくために、リーフレットを直接手渡ししたり、記載内容を紹介したりして活用していきたい。また、代議員の先生方と校長先生とで連携し、効果的な入会の呼びかけをお願いしたい。

(2) 会員数と時代のニーズを鑑み、委員会の統廃合と新設を。

- ・本年度各調査研究委員会へアンケート調査をした。その結果をふまえ、次の委員会について活動の見直しや統廃合を図る。
- ・昨年度の当委員会の答申を踏まえ、委員会の数・実施回数・人数・研究授業・紀要・会報・原稿の精選について、校長会幹事会、教育会常任委員会・代議員会で検討していただき、来年度への方向性を出していただいたことは、大変有り難く感じている。
 - 「青年教師」…本会の青年教師委員会も廃止されているので廃止
 - 「環境調査」…環境教育の視点から、活動の目的を明確にし、同好会に調査内容を移管することを前提に廃止。
 - 「発達障がい」…特担者会に同名の委員会があるので廃止し、特担者会の委員会に一本化する。ただし、特担者会の発達障がい委員会の組織や活動内容を工夫し、先生方の興味のある研究内容や困り感を解消できる活動ができよう検討する。
 - 「生徒指導」…上小地区生徒指導連絡協議会と兼ねている委員が多く、連絡協議会において事例研究会を行っている。また教育事務所などが主催する会合が多く行われているので廃止。
 - 「会誌会報」…会報の記載内容によっては、HP への移行や、会誌へ統一が考えられるので、誌面の縮小や発刊回数の縮減を検討する。会誌の内容を精選し、原稿の依頼数を減らすことも検討する。全面 HP への移行は考えず紙ベースでの発行は継続する。
 - 「教育資料」…教科書を中心に蔵書のデータベース化を進めているが、その他の貴重な資料のデータベース化が進んでいない。会員の皆さんにその資料を有効に利用していただくために、委員の増員を検討する。
 - 「石井鶴三」…将来的に石井鶴三美術資料室の管理を上田市美術館に移管していくことを考慮し、石井鶴三美術資料室の様態替えを友の会の方にお問い合わせできないか検討する。上小地区児童生徒立体等作品展の計画と実施の活動は重要なので継続するが、同会の活動としていくことも考えていく。
- ・学習指導委員会は、現場職員の授業改善につながる研究を更に進める視点で、教育課程研究協議会の午後の活動内容などを再検討し、委員会の充実を図ると共に、研究内容を活用できるようにしていきたい。(データベース化など)

会員の負担を軽減しつつ、会員先生方の必要感と興味関心をにマッチした研究や研修を深められる、また様々な形や立場で児童生徒に還元できる、委員会活動にしていきたい。

(3) 新しい時代に合った会員のための研修やコミュニティの場として、会館施設の利用を。

- ・会館内の一室を有効利用し、コワーキングスペースを創設し、環境や機器を揃える。この企画の運用を開始しながら、参加者の数やニーズを把握し、改善点や追加の機器などを検討する。
- ・会館の施設開放を宣伝し、ワーキングスペースとしての利用を呼びかける。

仲間を増やしたり、仲間同士で情報交換したりする場を提供することも教育会の大事な存在意義と考える。会館での会議の後帰校しなくても残りの仕事ができる場やコミュニティの場として利用できる一室を創設したい。そのための環境や機器を準備したり、利用をよう呼びかけたりする。アンケート結果からは80%の会員が、その様な部屋や機器が揃えられていれば、「利用したい」または「たまには利用したい」と思っている。教職員の働き方改革に貢献し、研修やコミュニティの場として活用してもらえるようにしたい。

(4) 教育会としての教員サポート事業はどうあるべきか、現場とサポーターの思いをどのように共有化していくか、調査研究を事業研究委員会で行う。

- ・校務をサポートするスタッフ（元教員など）を募集・派遣し教員の長時間勤務の解消を図るための事業立ち上げの準備を、来年度も事業研究委員会の活動の柱とする。
- ・本年度の調査研究を基に、教育会として、どのようなサポート体制が各学校にとって有効かつ現実的なのか、また、現場の先生方がどんなサポーターを必要と感じているのか、さらにサポートする側の皆さんはどんなお考えをお持ちなのか把握できるよう、更に調査研究を進める。

保護者や児童生徒へのより丁寧な対応や、配布物や成績物などへの配慮、日々の授業改善、部活指導等々、多忙を極める教員の業務を改善するための事業の設立準備を展開する。現在、県、賛助会会員、各学校、などでスクールサポート事業を進めてきている、それらの事業と共同して教育会ができるサポート体制を確立させる。来年度はサポート事業の内容やスタッフの募集、スタッフの配置等について、賛助会会員の皆さんにもお諮りし、スタッフの募集の範囲についても検討する。事業の立ち上げにより、教育会への理解と、入会の有用性を感じてもらえる事が期待される。

七 委員名簿

推進係	片桐 芳之 (浦里小学校長)	会計	山野井 宏彰 (東御東部中学校)
委員長	田中 昭彦 (祢津小学校)	記録	所 雅文 (川西小学校)
副委員長	服部 直幸 (北小学校)		堀内 富美 (第五中学校)